



独占資本(ユダヤ資本)が従う「資本の意志」を増田が代弁すれば、、！

「資本主義」とは資本(カネ)本位制、カネがモノを言う世界と時代である。

今日は基軸通貨ドルの自由裁量権を持つユダヤ資本が世界を支配している。

今日と明日の世界を知るには債権者(支配者)と債務者(被支配者)から構成されている今日の世界の構造を知らねばならない。

「インターネット国際政経塾」(増田塾)で「第三次世界大戦へ草木もなびく」について解説したように、昨今の米下院議長ペロシ氏の訪台は第三次世界大戦へのプロセス加速に貢献した。

世界の政治は、今なお世界最強の軍事力と経済力、さらに世界市場の50%を占める資本市場を持つアメリカが主導し、中国もロシアもアメリカには及ばない。

戦後軍事力と経済力において抜群になったアメリカの通貨ドルの自由裁量権を持つユダヤ資本はアメリカの軍事、経済覇権を通して実質的に世界を支配してきた。

戦後アメリカが母親としておんぶにだっこで育てた世界は一人立ちし、親を必要とせず、親の指図を好まなくなってきた。

ユダヤ資本にとって世界が一致して従わなくなったアメリカを使って世界を支配することが難しくなってきたのである。

当然のことながらアメリカの世界覇権を正当化する為の戦後の基本思想であるリベラル・民主主義も御用済みとなって来た。

ユダヤ資本が新しい世界支配体制を構築する前に現体制をScrap(破壊)しなくてはならなくなった。

いかなる革命も戦争なしではなし得ない！

毎日世界で起きている出来事はすべてが第三次世界大戦に向かうプロセスなのである。

民主主義国家も全体主義国家も資本の上に成り立っている以上、資本の創造者であるユダヤ資本にとってはすべて債務者である。

ユダヤ資本にとって第三次世界大戦における東西陣営の勝ち負けは何の意味もない。

両陣営が戦争で疲弊し、財政破綻寸前まで負債が累積し、債権者としてのユダヤ資本の支配力が頂点に達することに意味がある。

日本の安全保障は、憲法解釈で専守防衛から先制攻撃体制へ変わりつつある。

台湾有事が確実になれば、予定通り防衛費はGDP比1%から2%になり、日本はアジアのみならず欧州の安全保障(NATO)にまで関与するようになる。

日本の安全保障指針が180度変わろうとしているのである。

日本人は、身も心も震撼とする事態に追い込まれないと日本人の(俗にいう)専守防衛型平和ボケを払拭し、積極的自主防衛指針に移行することは出来ない。

セプテンバー・イレブン(9・11・2001)が1998年8月8日のケニアとタンザニア米大使館同時爆破から準備されたように、日本版セプテンバー・イレブンは準備されている。

世界の価値観と体制革命が成就するまでの期間、日本が大活躍を強いられる時がある。

詳しくは、今日4日と最終日明日5日の「インターネット国際政経塾」(増田塾)にご注目下さい。